

マイゾウ・メーノス（まあーまあー）の世界 ブラジル

ブラジルを訪問する人、ブラジルに関心のある人にお勧めする！！

梅津 久 記

第1話ー楽しいフェスタ

“マイゾウ・メーノス”の世界で一番顕著なのが、約束した時間に遅れて行くのが通常で、逆に日本式にピッタリの時間に行ったら、失礼にあたってしまうことである。例えば、誕生日、結婚の祝い、食事の招待を受けた時は、早くて30分の遅れ、通常1時間位遅れて行くのが常識である。時間通りに行ったら、準備が出来ていないのに訪問者を応対することになり、招待した方に迷惑をかけることになってしまう。

ブラジルに来てすぐの時、食事の招待を受け時間にピッタリに訪問したら、なにも準備が出来ていないところに着き、ただ飲み物だけを出され、1時間もの間、ほかの訪問者が来るのを待ったことがある、その時はなんとも言えない気まずさに、その辺に置いてあった雑誌を、わけもわからずめくりまくって、だまって時間の過ぎるのを待ったことがある。

招待する方も、どうせ皆遅れて来るのだから、時間は少し早めに決めておけば良いし、準備も少し遅れる位が良い、といいかげんな無言の取り決めが存在しているように思える。

これは仕事の面でも同じで、約束の時間に5分から15分位遅れるのがちょうど良い、訪問を受ける方は少し遅れるのを見込んで、何か仕事をしており、時間ピッタリに訪問を受けるのを嫌う。日本式に玄関前で待ち、時間ピッタリに訪問したら「ヘイ・ジャポネース、オラーリオ・ブリターニコ！（この日本人、英国式時間帯だ！）」と言われてしまう。

特にひどいのは、政府関係者を招待して行う式典である、招待を受けた仲間同士で約束が出来ているのかどうか、うまい具合に、一番偉い人が最後に一番遅れて来る。それまで皆ワイワイ、ガヤガヤ立ち話をして時間を潰すのである。「この忙しい時に」とか、「次の予定があるのに」と気をもんではいけない。“郷に入っては郷に従え”である、ゆったりと構えていなければならない。日本流に“時は金なり”との諺はあり、“テンポ・エ・ジネイロ”と言われるが、本当にどこまで理解している人がいるのかわかったものではない。

会社で新しい工場建屋の落成式を行った時、夕方に工場を止めて全従業員を集めて待っていたが、1時間以上の遅れでプログラムの終わっている時間が過ぎても招待者が来ない為、一般従業員は送迎バスで帰宅させ、バス通勤でないごく一部の従業員だけが残って政府関係の招待者を待ち式典となったこともある。それでいて「遅

れて申し訳ありません」の言葉もなく、延々と何十分もの挨拶(政治演説)が続く。「もうやめてくれー」です。

乗り物の時間にしても同じこと、汽車、バス、地下鉄いずれも時刻表というものがなく、ただひたすらに待つだけである。1分も遅れずに発着する乗り物になれた日本人には、とても耐えられないことである。長距離のバス、飛行機は時間が決まっているが、これまた遅れるのが普通である。

ブラジルに来て、まだ車を持たなかった時分、バスで出かけるのにバスの発着時間がわからないため、どんなに不安でバスを待ったことか、30分、1時間は普通に待ったものです、ひどい時は待ちきれず有り金叩いてタクシーに乗ったこともある。

また、こんなこともあった、マナウスの飛行場でのこと、航空会社のカウンターでサンパウロに行く飛行機が、2時間遅れるとのこと、「しょうがないね」と搭乗手付きを終わって待合室で待っていると、「4時間遅れます」との連絡、良く聞くと、その飛行機は出発空港であるサンパウロをまだ飛び発っていないとのこと、なぜ始めから事情を説明しきちんと正確に伝えないのか。うんざりする中、航空会社の準備したバスに乗せられ、マナウス最上級の“5星”のトロピカル・ホテルで食事、休息して5時間遅れで出発した。一緒にいた日本からの旅行者の方は「一人だったら、言葉がわからず、どんなことになっていただろうか」と嘆きっぱなしでした。この飛行機便は日本に行く人が利用する便で、その中にはサンパウロで乗りえ日本に行く旅行者がいたはずですが、どうなったかはわからなかった、時間的には間に合わないほどの遅れでした。

5月から7月頃になると、夜マナウスを発って、早朝サンパウロに着く飛行機便があるが、サンパウロの飛行場が霧で着陸できなくなり、わずか4時間の飛行時間なのに途中ブラジリアの飛行場で2時間、3時間待たされるのが度々ある、毎年同じこと、なんとかならないものなのだろうか。

この“マイゾウ・メーノス“の世界でも良いこともある、誕生日・結婚披露宴・記念パーティー等に招待された場合、子供連れの家族全員で出席出来ることである、ずうずうしい人は親戚、友達まで連れて行くこともある。“マイゾウ・メーノス”の世界だから、招待するほうも、日本式に招待者の数をきちんと把握して、席順まで決めているのは違い、おおざっぱな人数で、飲み物・食べ物(ほとんどバイキング式)・椅子・テーブルを準備しているだけだから、席がなくなれば皆立ったままで飲んだり、食事をしながらなごやかに話をしてパーティーは続けられる。それがまた時間の制限がなく、最後の招待者が帰るまで続けられる、とにかく話好きなブラジル人達のこと、最後の飲み物がなくなる朝方まで続く、日本みたいに「すみません、時間となりましたので、これにて終了させていただきます」なんてことはない、そんなこと言ったら、逆に「招待しておいて、帰れとはなんだ！」とそれこそ大騒ぎになってしまう。

先ほどの、汽車・バスの話に戻りますが、日本では時間だけでなく、汽車・バスな

どは決められた所にきちんと止まる、特に地下鉄、列車などは、ホームにマークがあり、数十センチも違わないでピタッと停止する。そのため乗客は決められた所にきちんと列になって待っている。こんな光景をブラジル人が見たら大変ビックリしてしまう。“マイゾウ・メーノス”の世界のブラジルでは、そんな決まり事はなく地下鉄もバスも適当に止まる、乗客は乗車口に向かって、ドド・ドドッと移動する、地下鉄はまだ数メートルだけだから良いが、バスなどはひどい、何台も前や、後ろに止まって、乗客を乗り降りさせる、またバスの二重停車まであり、止まっているバスの間をくぐり抜け一目散に乗車口めがけて走らないと乗り遅れてしまう、年寄り、子供を抱えた人は大変である。(最近では地下鉄の駅で混雑回避の為に、ホームに停止マークを表示し、さらに“降りる人を待ってから乗車して下さい”と書かれているが、それでもだめで、降りる方と乗る方を手摺で仕切っている駅も出て来た。)

こんな無秩序な場合でも「おお、これはすごい！」と言わされることがある、それは“プリメイロ・ダーマ”と言って“女性優先”の習慣である、どんなに列が乱れ(もともと列などないけれど)我先と走り出す状況になっても、後ろに女性がいれば、手を差し向けて先に譲る、後ろの人が譲れば、その前の人と同じく譲る、そうすると自然と女性が先に乗ってしまうことになる。これはとても紳士的な振る舞いで、だれに言われることなく自然と振る舞われる。女性をも押しつけて列車に乗る日本人に、ぜひ見せたい光景です。

さらに女性に関しては、日本人はよく女性に年齢を訪ねるが、ブラジルでは失礼にあたるのでよほどのことがない限り避けなければならない。

-次回 第2話へ続く-